

財務戦略

経営企画総轄執行役員メッセージ



常務執行役員 村上 康雄

「稼ぐ力」の強化でROE向上と株主還元を推進していく

保土谷化学グループは、中期経営計画「SPEED 25/30」においてROE9%の実現を目指しており、2025年度末（2026年3月期）にはその中間地点である「フェーズ1」の終了を迎えます。過去4年間で得られた営業活動によるキャッシュ・フロー（212億円）を、当社グループの成長ドライバーである機能性色素セグメントを中心とした事業等への成長投資（211億円）に支出しながらも、D/Eレシオは0.2倍程度を維持しており、当社の財務の健全性や安全性は高い水準にあります。

またこの間、DOE（株主資本配当率）の向上を意識した配当政策に基づき、1株当たりの年間配当額を2020年度の25円から2024年度の45円に増加させています。さらに、5期連続増配を目指し、2026年3月期は年間50円と予想しています。

「フェーズ1」の最終年度である2025年度については、売上高においては当初目標と同水準の業績予想を掲げておりますが、営業利益については大きく乖離が見込まれます。この状況を踏まえ「フェーズ1」を総括し課題の洗い出しを行うとともに、「フェーズ2」の計画策定に反映させていきます。具体的には「成長分野へのさらなる資源投入」や「DXを通じた生産性向上」「環境対応強化」などを通じて経営基盤のさらなる強化を図り、「稼ぐ力」を一層強化してROE向上を目指します。

今後も「成長投資」「株主還元」「有利子負債コントロール」の3つのバランスを堅持しながら、高いROEを実現できる高効率経営を目指します。そのためには、株主還元の拡充に加え、新たな価値を創造し、将来の企業価値の向上につなげていくため、現在、一定の安全性を維持しているネット有利子負債や株主資本、株主資本比率をさらに有効に活用するなど、財務・資本施策を実践し、当社グループの継続した成長を加速してまいります。

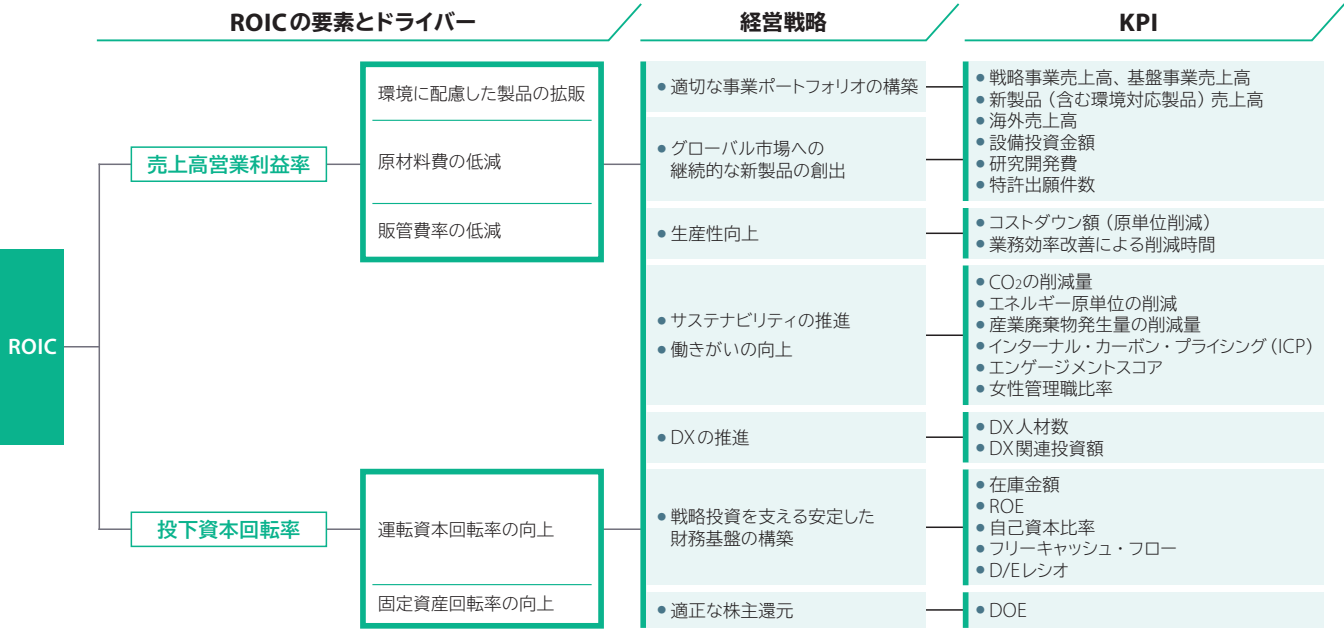
※ 当社は2025年4月1日付で1株につき2株の割合で株式分割を行っています。2025年4月1日以前の1株当たり配当金につきましては、株式分割調整後の数値を表示しています。

中期経営計画の目標達成のための財務戦略（経営資源配分）

中期経営計画「SPEED 25/30」の「2030年度のありたい姿」に掲げる「適切な事業ポートフォリオの構築」に向けた既存事業への投資、「グローバル市場へ向けた新製品の開発」に資する知的財産投資、「高い生産性の実現」に向けたあらゆる効率化を目的とした投資、人材拡充のための人的資本への投資などについて、社内で設定したKGI（Key Goal Indicator：重要目標達成指標）とKPI（Key Performance Indicator：重要業績評価指標）を把握・管理しております。また、各部門、各グループ会社におけるKGIやKPIがグループ全体の成長につながることをROICツリーにて認識し、それぞれのKPIについては、毎年その定量評価と定性評価を実施し、それぞれの施策への経営

資源の配分を決定し、実行しています。これまでの、韓国拠点での既存事業・新規事業を中心とした「機能性色素セグメント」への経営資源の配分を重点的に実施しました。今後は、国内を主とした成長投資を積極的に行い、「適切な事業ポートフォリオの構築」を加速させていきます。加えて、非財務面における「コストダウン額（原単位削減）」「CO₂削減量」「DX人材数」といったKPIも当社の将来の成長につながる重要な要素であり、適切な経営資源の配分を行っています。「SPEED 25/30」は、2030年度までの中期計画ですが、年度ごとにKGIやKPIを適切に評価、検証することで、掲げた目標の達成を加速してまいります。

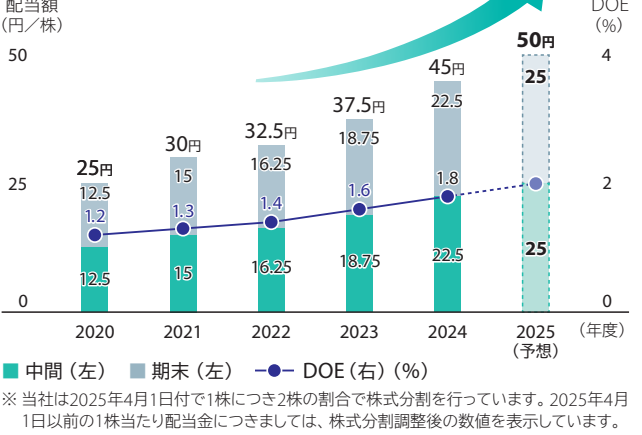
保土谷化学グループのROICツリー



資本政策および株主還元方針

資本政策においては、成長投資・株主還元・内部留保のバランスを重視し、企業価値向上に資する資本効率の最大化を目指しています。具体的には、DOE（株主資本配当率）を念頭に安定的な配当を継続しつつ、PBRや資本コストを意識した資本最適化に取り組んでいます。自己株式については、将来的な報酬制度での活用や、消却・処分も視野に、保有・取得の検討を柔軟に進めています。財務戦略の明確な説明責任を果たすことで、株主・投資家との信頼関係を強化し、中長期の企業価値最大化に向けた還元方針を推進してまいります。

配当の推移



売上高・営業利益・EBITDA（営業利益+減価償却費）

